



学校のトイレ

Q 学校トイレの改修を

大野 洋子 議員



A 耐震化工事の後、計画的に実施できるように検討していく

質問一 学校トイレの実態は。
二 学校トイレ改修事例集は。
三 学校トイレの改修計画は。
答弁一（教育委員長） 平成21年度の国の臨時交付金を活用して、22年度に小学校全体で30基、中学校全体で16基の大便器を洋式化した。現在、市内小中学校の洋式便器は、小学校全体で約22割、中学校全体で約27割となっている。車椅子対応のトイレは、鶴ヶ島第一小学校、新町小学校、鶴ヶ島中学校に1か所ずつ、鶴ヶ島第二小学校には3か所設置している。
二 文部科学省は、トイレの機能の改善やトイレ環境の向上等を促す目的で、23年11月に学校トイレ改修事例集を作成した。これには、現在の学校のトイレにおける課題や改修方法、葛飾区などの改修事

例が掲載されており、学校のトイレの改修を行う場合の参考になるものと認識している。
三 トイレの洋式化を進めるには、配管などの更新も必要となる。現在、大規模地震に備え、学校体育館非構造部材の耐震化等を優先して進めている。トイレの洋式化等の大規模改修は、その後計画的に実施するよう検討していく。
◎その他の質問
 オープンデータ戦略への取り組み。

Q 多世代交流の場の更なる創出を

出雲敏太郎 議員



A 交流場所の提供や活動支援を行っていく

質問一 自治会や支え合い協議会を多世代交流の場としてどのように捉えているか。
二 多世代交流の場の拡大、創出の取り組みは。
三 多世代交流の場の拡大、創出における行政の役割は。
四 多世代交流の場の拡大に向け

た全体的な計画について。
答弁一（市長） 自治会は、地域の中での住民の役割や居住する地域のための活動を実感する場である。地域支え合い協議会は、地域住民だけでなく市民活動団体や事業者など多様な人々が交流・連携し、課題解決に向けて取り組んで



いく場と捉えている。
二 自治会や地域支え合い協議会に対する補助金の交付、交流促進に向けた情報の提供、地域福祉活動団体の活動支援などを行っている。
三 交流のきっかけとなる場の提供や地域における多様な交流活動を支援すること考えている。
四 交流を進め、地域の関係性を濃くしていく目的で市民センターを開設する。多世代交流の場を広げ、支え合いの仕組みの拡大を各種計画に反映させていく。
◎その他の質問
 市の防犯体制について